る.

(5) 海風循環が始まる最初の位置は，今回の観測例では海岸線から沖方向へ1km くらいの範囲内であった.

謝 辞

この論文執筆にあたり助言をしていただいた広島地方気象台長 中沢全一氏に対して謝意を表します.

文 献

Meyer, J.H., 1971: Radar observations of land breeze fronts, J. Appl. Meteor., 10, 1224-1232.

中山 章，1975：海陸風の現象の概要と問題点，気象研究ノート，125，1-19.

中田隆一，1983：瀬戸内海西部に発生する陸風収束雲について，天気，30，476-482.

大阪管区気象台，1972：瀬戸内海の海陸風，2-5.

内田英治，1976：複雑な地形下における海陸風構造の研究，研究時報，28，25-37.

Wallingon, C.E., 1965: Gliding through a sea breeze front, Weather, 20, 140-144.

日本気象学会における日本学術会議第13期会員候補者等の選考経過及び選考結果

日本気象学会 理事長

1．選考経過

(1) 昭和59年10月24日の理事会において会員候補者の選出及び推薦人の指名方法を決定した（「天気」昭和59年11月号参照）.

(2) 同時に，学会内の推薦委員会の委員として，浅井冨雄，岸保勘三郎，竹内清秀，増田善信，山元龍三郎の5名を選出した.

(3) 昭和59年11月号の「天気」で告示した学術会議会員候補者として対象とすべき会員に関する募集の結果，2名の会員がそれぞれ2名の会員から推薦された.

(4) 昭和60年1月25日の常任理事会で，学会内の推薦委員会委員として，松本誠一を追加した.

(5) 昭和60年2月2日，学会内の推薦委員会を開催した．委員6名のうち，出席4名，欠席2名．互選により山元龍三郎を推薦委員会の委員長とした.

(6) 推薦委員会での審議経過は，次のとおり.

① 客観情勢として次のことを再確認した.

a．地球物理学からは2名の学術会議会員が選出されることになっている.

b．これを選出する推薦人は合計19名であり，そのうち気象学会には4名が割り当てられている.

c．上記の情勢からすると，当学会から2名の学術会議会員が選出されることは考えられないので，当学会から選出する候補者数は1名とする.

② 会員候補者を選考するにあたっては，年齢，業績，知名度，企画・立案・調整などの経験等一般的事項のほか，とくに地球物理学の他の分野との関連度，当学会からの被推薦者が学術会議会員に選出される可能性について留意した.

これら留意点を中心に，学術会議会員候補者を1名にしぼるための審議を行った．会員から推薦された2名の被推薦者以外に適任者がいるかどうかについても議論があったが，最終的に，会員から推薦された澤田龍吉会員を候補者として選定した.

③ 推薦人については地球物理学の他分野との関連度などを重視して，選考した.

(7) 推薦委員会の選考結果

① 会員候補者（1名）

澤田龍吉（前福岡教育大学学長）

② 推 薦 人（4名）

浅井冨雄（東京大学教授）

竹内清秀（気象研究所長）

松野太郎（東京大学教授）

山元龍三郎（京都大学教授）

2．決 定

上記(7)の結果が理事長に報告された．これについて全理事の可否を問うたところ，会員候補者，推薦人いずれも多数により可とされたので，常任理事会は所定の手続きにより日本学術会議に届け出た.